

「国際観光旅客税」引き上げに伴う説明会 報告

5月15日、国税庁及び、観光庁観光戦略課による国際観光旅客税引き上げに伴う説明会(オンライン)に通団連会からランデル会長をはじめ有志8名が参加しました。

【観光庁からの説明のポイント】

1. 日本からの出国1回につき、2026年7月1日より現行1000円が3000円に引き上げされる。(日本人・外国人共に)
2. 航空・船会社が出国のチケット代金に上乗せして徴収。
3. 目的・施策の背景：観光施策の充実・強化／観光客受入れの住民生活の質の確保／地域経済・社会に好循環で真の観光立国をめざす。
4. 観光旅客税財源と一般財源を合わせて観光庁関係予算案が大幅アップの1383億円に。オーバーツーリズム対策、地方誘客推進等、重要課題に取り組む施策を実施する。
5. 令和8年度観光庁関係予算決定概要について、
 - ① 出入国・通関等の環境整備(個人識別情報システム機能強化等)
 - ② 地方誘客の推進による特定の都市・地域への集中是正と分散の推進
 - ③ 混雑・マナー違反対策等への対応(新倉山浅間公園展望デッキ設置等)

使用されたPPTスライドは、下記からダウンロードが可能です。(5/20から7日間)

<https://94.gigafile.nu/0525-dd595ad0d94067111777df92f17999f4c>

これに対して、会長からは、御礼とご報告と共に、

「予算を通訳ガイド関連にも活用いただきたい。

インバウンド客のマナー改善その他についても効果を上げるには、具体的に、ガイドに対してガイドのしかたの指導をすることが必要である。どんな施策にあっても、現場でお客様に接するツアーの仕上げの部分(ガイド)の重要性を広く皆様にご理解を頂き、その基礎スキルアップに支援を頂けることを望んでいる。」と意見を申し上げた。

観光庁からは、観光ガイドのスキルアップ支援が必要であることも強く認識している。

通訳案内士関連の予算引き続き関係部局とも連携しながら検討を進めてまいりたい」という回答があった。

以上